

「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「大人は信用できる」「自分の将来の夢や目標を持っている」「将来のためにも、今、頑張りたいと思う」「将来、働きたいと思う」の6項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を記載しています。得点が高いほど、自己効力感(ある状況において、必要な行動を効果的に取ることができると思えること(可能性の認知なので、「できると思える」の逆で「できると思えない」ことも含まれる))が高いことを表します。

イ こどもが放課後に過ごす場所

(ア) 困窮度別

差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「塾」が中央値以上群では 25.0%であるのに対し困窮度 群では 10.5%、「習い事」が中央値以上群では 49.6%であるのに対し困窮度 群では 30.8% (図 56-1)、中学校2年生の場合、「塾」が中央値以上群では 37.4%であるのに対し

困窮度 群では 24.3%、「習い事」が中央値以上群では 21.2%であるのに対し困窮度 群では 13.2%、「学校(クラブ活動など)」が中央値以上群では 68.4%であるのに対し困窮度 群では 58.7% (図 56-2)となっています。

(イ)世帯構成別

差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「習い事」がふたり親世帯では 45.6%であるのに対し、母子世帯では 33.9%、父子世帯では 31.6%、(図 57-1)、中学校2年生の場合、「塾」がふたり親世帯では 34.0%であるのに対し、母子世帯では 28.1%、父子世帯では 27.3%、「習い事」がふたり親世帯では 19.2%であるのに対し、母子世帯では 14.6%、父子世帯では 9.6%、「学校(クラブ活動など)」がふたり親世帯では 67.1%であるのに対し、母子世帯では 57.5%、父子世帯では 60.8% (図 57-2)となっています。

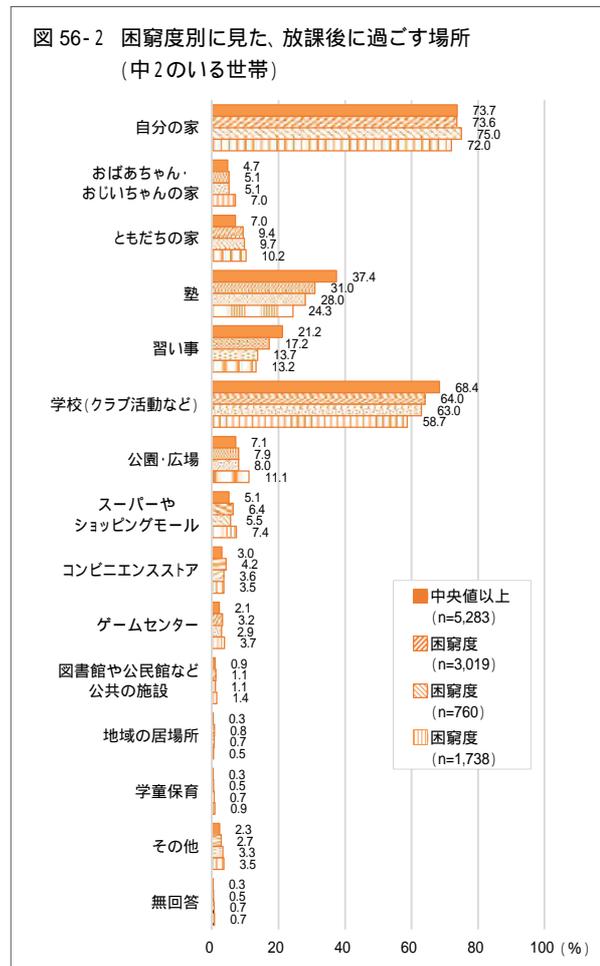
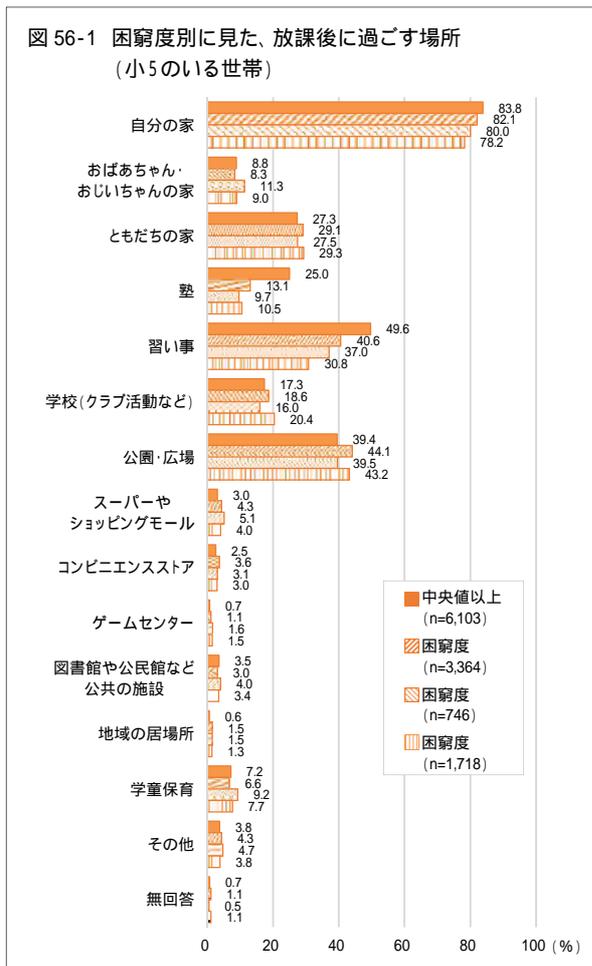


図 57-1 世帯構成別に見た、放課後に過ごす場所
(小5のいる世帯)

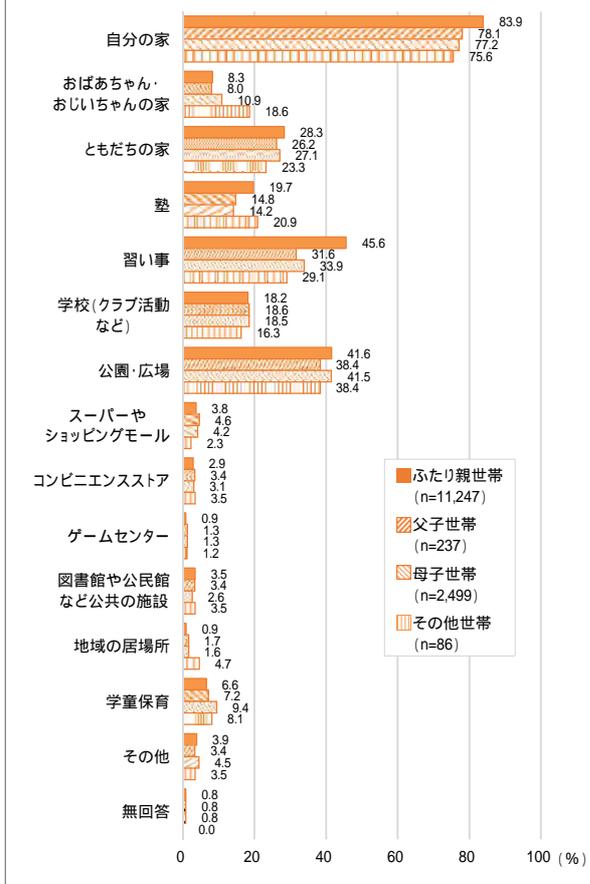
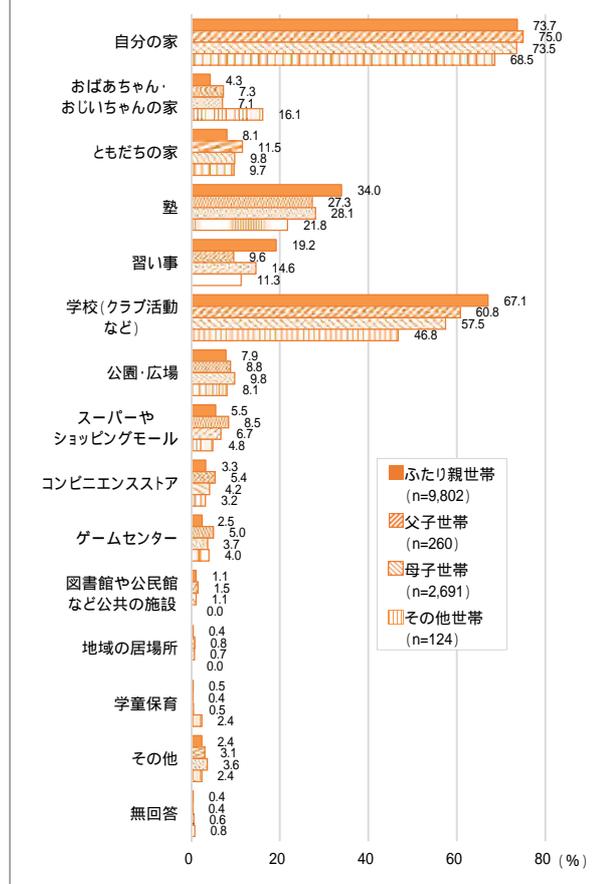
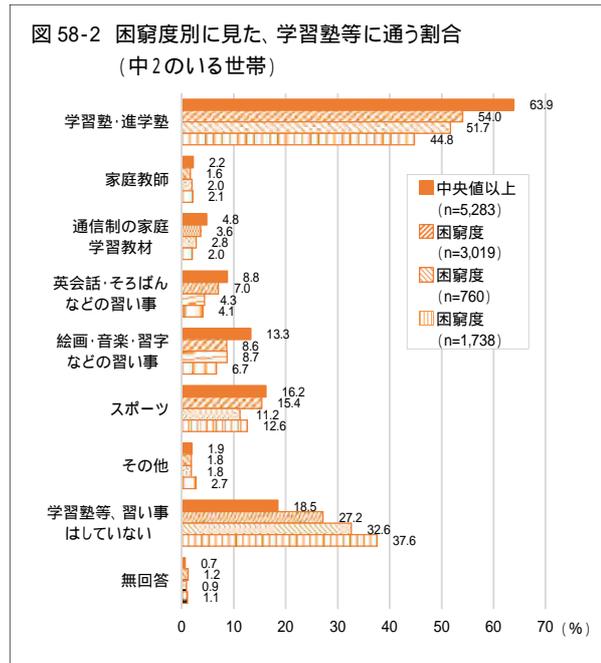
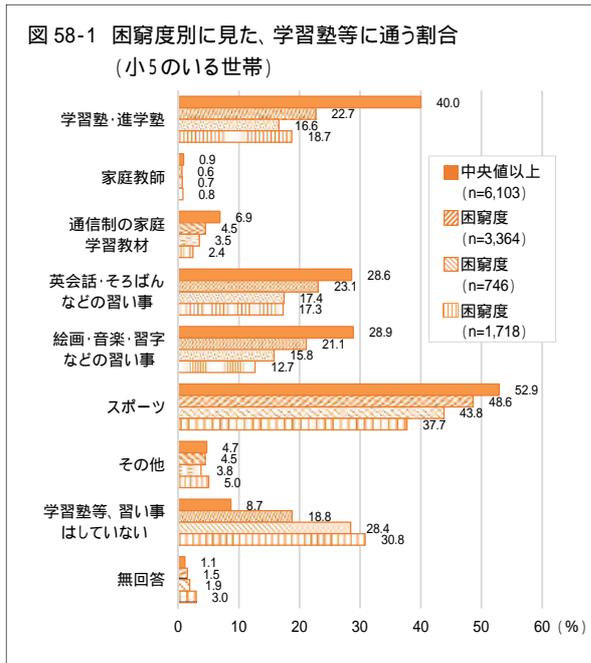


図 57-2 世帯構成別に見た、放課後に過ごす場所
(中2のいる世帯)



ウ 学習塾や習い事の利用状況

小学生と中学生とで大きく変わっていますが、どの利用先も困窮度が高くなるにつれて、利用している割合が低くなり、「学習塾、習い事はしていない」と回答する割合が高くなっています。差が大きい項目を見ると、小学校5年生の場合、「学習塾・進学塾」が中央値以上群では 40.0%であるのに対し困窮度 群では 18.7%、「絵画・音楽・習字などの習い事」が中央値以上群では 28.9%であるのに対し困窮度 群では 12.7%、「学習塾等、習い事はしていない」が中央値以上群では 8.7%であるのに対し困窮度 群では 30.8% (図 58-1)、中学校2年生の場合、「学習塾・進学塾」が中央値以上群では 63.9%であるのに対し困窮度 群では 44.8%、「学習塾等、習い事はしていない」が中央値以上群では 18.5%であるのに対し困窮度 群では 37.6%となっています (図 58-2)。



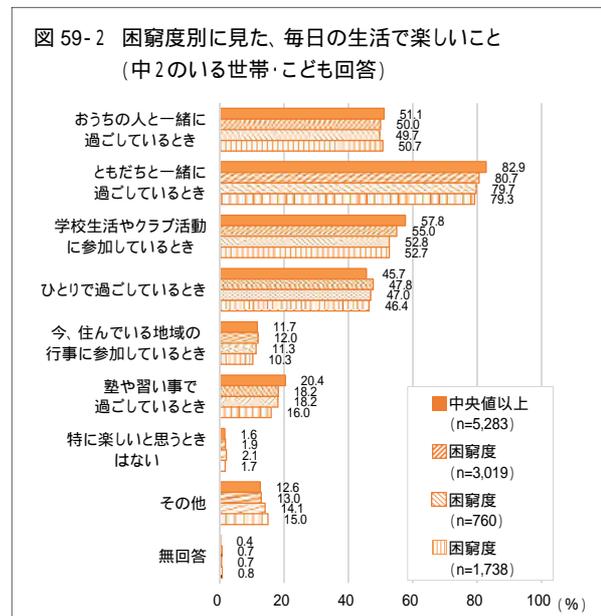
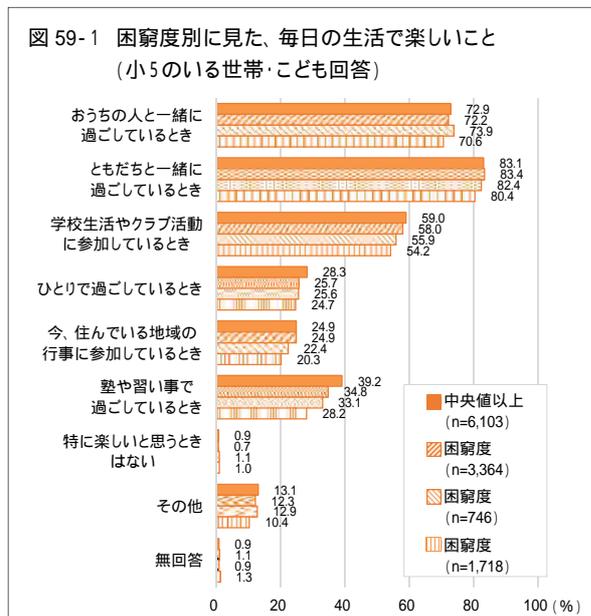
エ こどもの毎日の生活

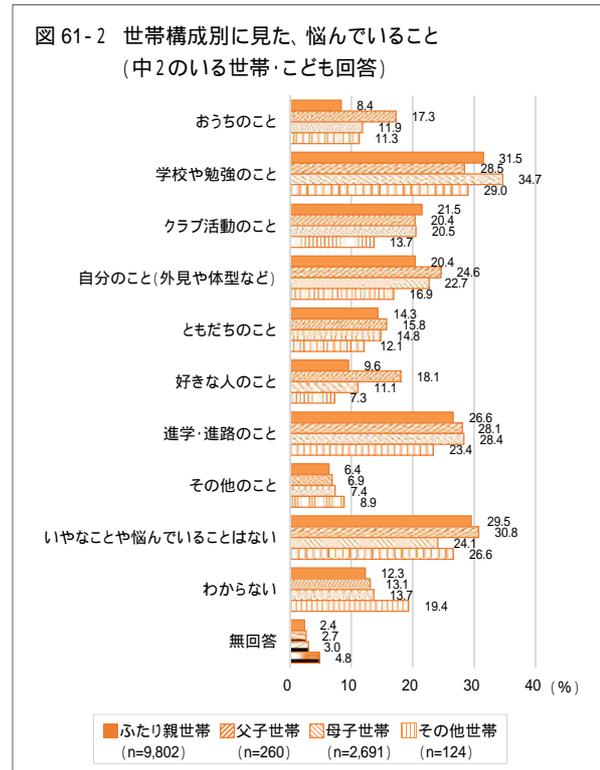
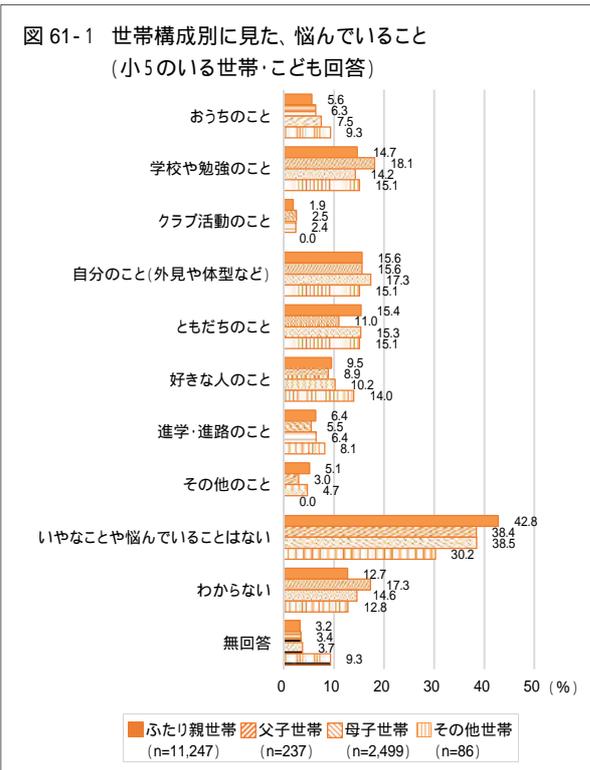
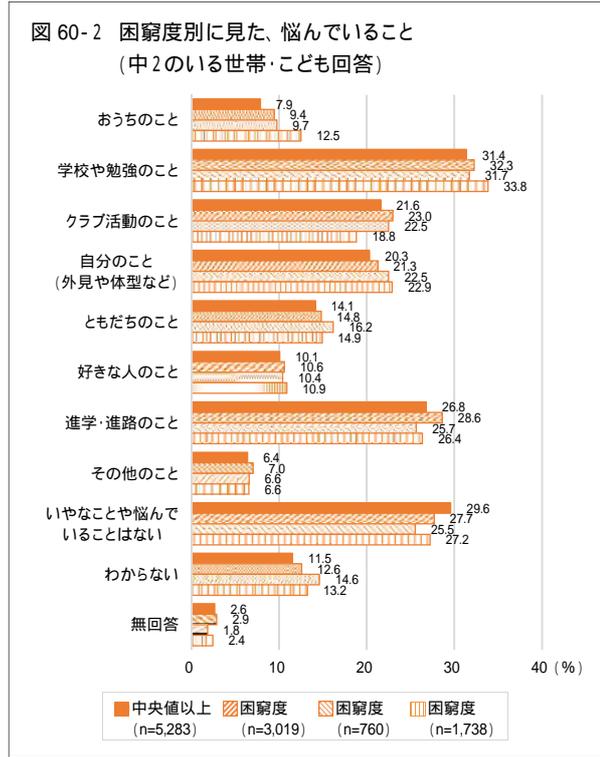
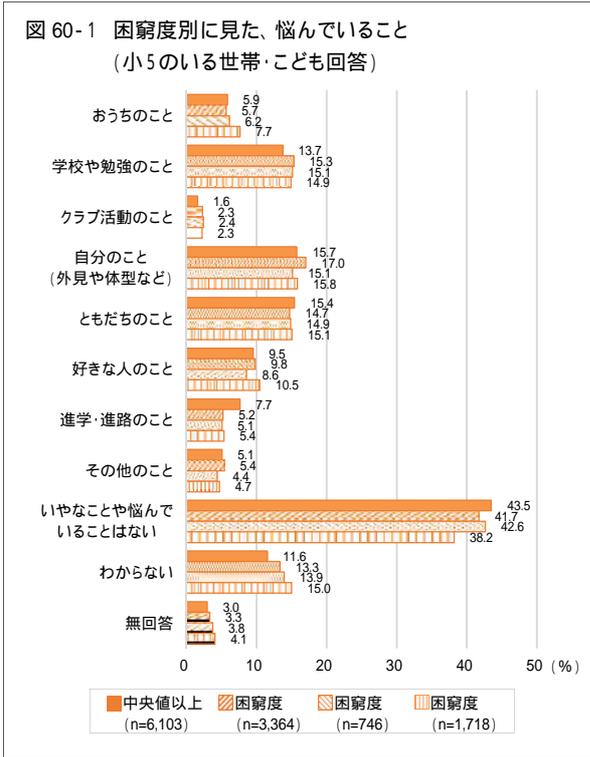
(ア) 楽しいこと

差が大きい項目を困窮度別に見ると、小学校5年生の場合、「学校生活やクラブ活動に参加しているとき」が中央値以上群では 59.0%であるのに対し、困窮度 群では 54.2%、「塾や習い事で過ごしているとき」が中央値以上群では 39.2%であるのに対し困窮度 群では 28.2%(図 59-1)、中学校2年生の場合、「学校生活やクラブ活動に参加しているとき」が中央値以上群では 57.8%であるのに対し、困窮度 群では 52.7%(図 59-2)となっています。

(イ) 悩んでいること

差が大きい項目を困窮度別に見ると顕著な違いは見られません(図 60-1、図 60-2)が、世帯構成別に見ると、中学校2年生の場合、「おうちのこと」が、ふたり親世帯では 8.4%であるのに対し、母子世帯では 11.9%、父子世帯では 17.3%(図 61-2)となっています。





オ 保護者が困ったときの相談先

(ア) 困窮度別

困窮度別の保護者が困ったときの相談先について、中央値以上群と困窮度 群との間で差が大きい項目に着目しながら困窮度 群の数字を挙げると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では、「地域の民生委員・児童委員」が 0.4% (中央値以上群に対して 4.0 倍)、「相談できる相

手がいない」が 5.0% (3.1 倍)、「公的機関や役所の相談員」が 3.8% (2.2 倍) (図 62-1)、5歳児のいる世帯では、「相談できる相手がない」が 3.7% (中央値以上群に対して 4.1 倍)、「その他」が 1.9% (2.7 倍)、「地域の民生委員・児童委員」が 0.5% (2.5 倍) (図 62-2)となっています。

また、相談先の箇所数としてみた場合、困窮度が高くなるにつれ、相談できる相手がないと相談先が1か所の割合の合計は高くなっており、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では、中央値以上群は 15.1%であるのに対し困窮度 群は 30.0% (図 63-1)、5歳児のいる世帯では、中央値以上群は 9.4%であるのに対し困窮度 群は 18.6% (図 63-2)となっています。

(イ)世帯構成別

世帯構成別に保護者が困ったときの相談先について、「相談相手がない」に着目すると、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯は、ふたり親世帯で 2.0%、父子世帯で 6.4%、母子世帯で 5.4% (図 64-1)、5歳児のいる世帯は、ふたり親世帯で 1.1%、父子世帯で 7.7%、母子世帯で 4.5% (図 64-2)となっています。

また、相談先の箇所数としてみた場合、相談できる相手がないと相談先が1か所の割合の合計は、小学校5年生・中学校2年生のいる世帯では、ふたり親世帯は 16.0%であるのに対し、母子世帯は 30.5%、父子世帯は 39.8% (図 65-1)、5歳児のいる世帯では、ふたり親世帯は 9.9%であるのに対し、母子世帯は 24.2%、父子世帯は 31.5% (図 65-2)となっています。

図 62-1 困窮度別に見た、保護者が困ったときの相談先
(小5・中2のいる世帯)



図 62-2 困窮度別に見た、保護者が困ったときの相談先
(5歳児のいる世帯)

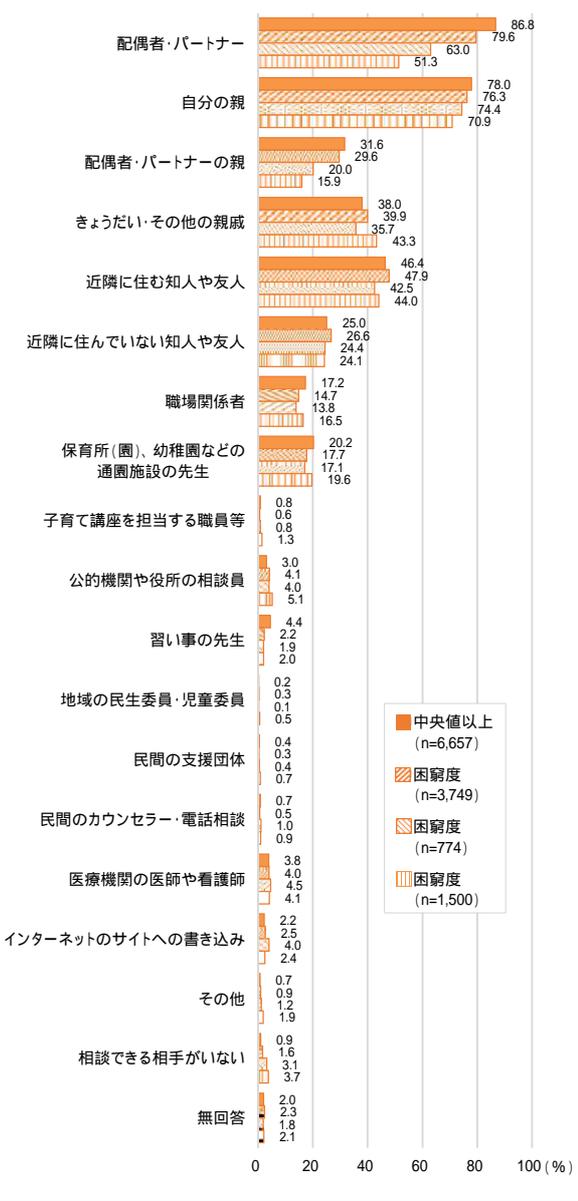


図 63-1 困窮度別に見た、相談できる相手
(小5・中2のいる世帯)

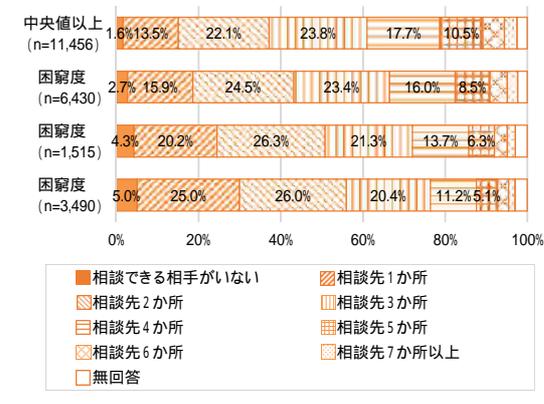


図 63-2 困窮度別に見た、相談できる相手
(5歳児のいる世帯)

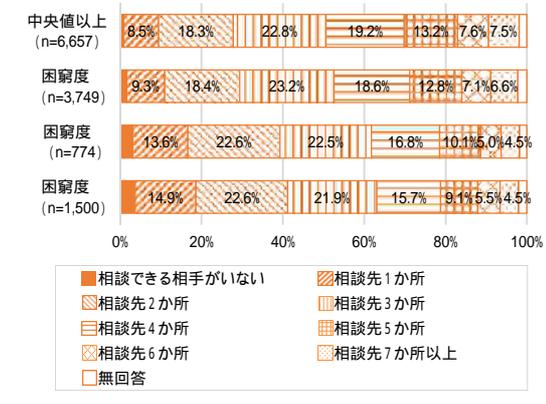


図 64-1 世帯構成別に見た、保護者が困ったときの相談先
(小5・中2のいる世帯)

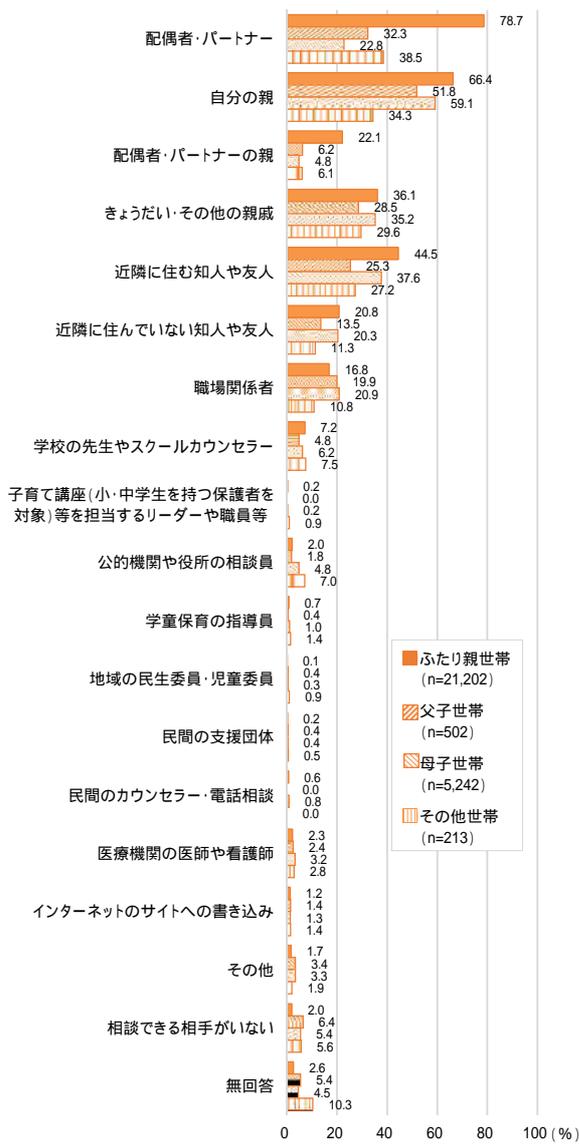


図 64-2 世帯構成別に見た、保護者が困ったときの相談先
(5歳児のいる世帯)

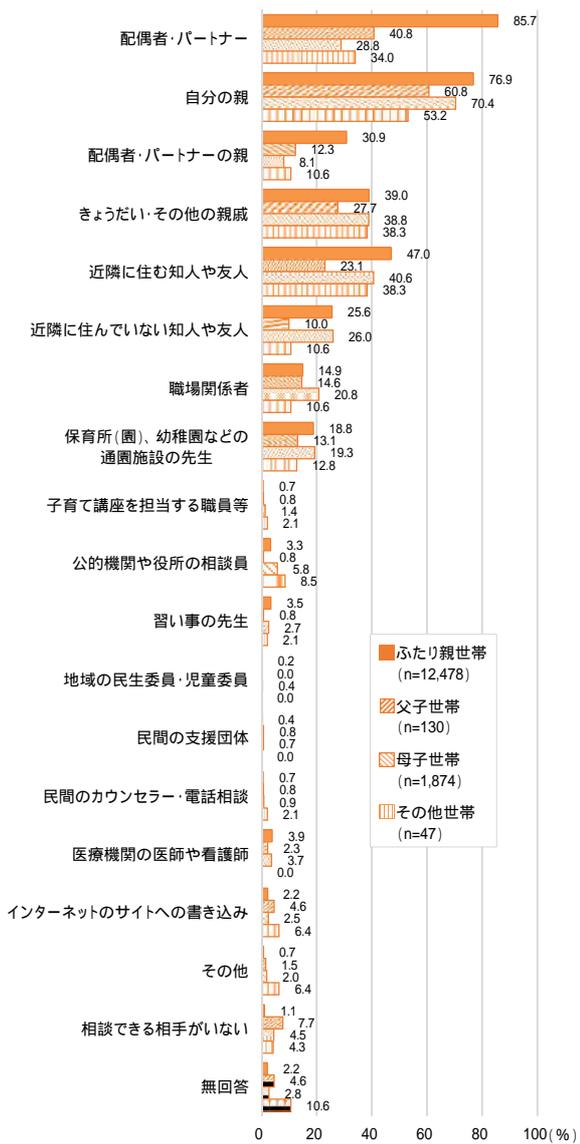


図 65-1 世帯構成別に見た、相談できる相手
(小5・中2のいる世帯・保護者回答)

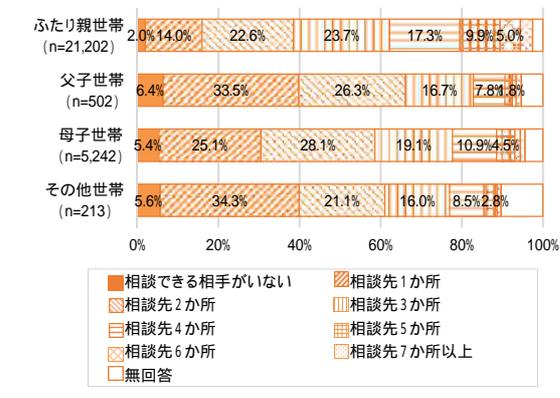


図 65-2 世帯構成別に見た、相談できる相手
(5歳児のいる世帯・保護者回答)

